

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名：京丹波町

1. 平成24年度 行財政改革推進計画について【総括表】

計 画 の 概 要 等	背景	急速な少子高齢化の進展や地域産業の停滞などに伴い、国の社会経済情勢はかつてない厳しい状況にある。 本町においては、歳入面では税収の落ち込み等により地方交付税に依存せざるを得ない状況であり、今後ますます増加していく社会福祉費等の医療扶助費をはじめ、病院や介護保険等の社会保障に係る特別会計、また水資源や環境対策に伴う上下水道事業特別会計への繰出等、今後増大する財政需要に対応できるだけの財源確保対策について苦慮している状況である。		
	必要性	本町においては、総合計画の掲げる「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち」の実現に向け、「京丹波町行政改革大綱」を策定する等、数値目標や基本方針を定め、積極的な行財政改革に取り組み、一定の成果が現れているところである。 しかしながら、本町の歳入は合併特例期間によって一時的に増加している普通交付税に支えられており、合併特例期間の終了後においても安定的かつ健全な行財政運営を実現するためには、さらなる行財政改革の推進が必要である。		
	概要	本町の総合計画に掲げる「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち」の実現に向け、本町が抱えるさまざまな課題や多様化した住民ニーズに対応するため、以下のとおり、行財政改革に取り組むものとする。 ・道路橋梁維持管理事業 ・町有空調機器等改修事業 ・中学校改修事業		
	効果	行財政改革への取り組みにより、行政コストの削減と財政健全化を図りながら、行政サービスの向上を図ることが可能となる。 道路橋梁維持管理事業及び中学校改修事業においては、施設機能の維持・向上を図るとともに、できるだけ早期に修繕することにより、老朽化の進行を防止し、施設の長寿命化を図り、修繕費等の維持経費の軽減を図る効果を見込んでいる。 町有空調機器等改修事業においては、施設機能の維持向上を図るとともに、電気代等ランニングコストの軽減を図る効果を見込んでいる。		
平成24年度行財政改革推進計画に伴う事業実績による行革効果について				
事業分類	事業名・実施項目	取組実績の概要	主な実績数値（出来高数値等）	行革効果（単位：人・千円等）
小規模市 町村支援	道路橋梁維持管理事業	町道における各区等からの要望箇所について、危険性、緊急性等勘案しながら、優先順位を決めて順次修繕を実施した。	道路改修工事 58箇所	8,362千円/年
	町有施設空調機器修繕事業	故障した町有施設の空調機器の修繕を行い、施設機能の維持とランニングコストの軽減を図った。	空調機器改修工事 3箇所	350千円/年
	中学校改修事業	瑞穂中学校の受電設備の改修等を行い、生徒の安心・安全の確保に努めるとともに、老朽化の進行の防止と施設の長寿命化を図った。	瑞穂中学校受電設備等改修	18,000千円/年

2. 平成24年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について
【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目							
小規模市町村支援		道路橋梁維持管理事業							
事業着手前									
課題・現状		町道は、住民の最も身近な生活道路であり、子供や高齢者等が通行することも多いため、安心・安全に利用できる機能を維持する必要があるが、舗装や付帯する構造物が損傷している箇所が多数存在しており、厳しい財政事情からその全てに対応することができず、住民からの要望も絶えることがない状況である。							
事業概要		町道において、舗装や付帯する構造物が損傷している箇所が多数存在しており、住民からの要望も絶えることがない状況である。各区等からの要望箇所について、危険性、緊急性等勘案しながら、優先順位を決めて順次修繕を実施する。 【修繕箇所】 町道千手寺線 町道坂原須川線 町道千手寺線 町道蒲生野高原中央線 町道須知市森線 町道下山日吉線 町道中台来光田線 町道安井塩田谷線 他 道路改修工事費 38,000千円							
期待される事業効果等		本事業の効果 ・事故を未然に防止し、安全安心な生活道路としての機能を維持することができる。 ・できるだけ早期に修繕することにより、老朽化の進行を防止し、施設の長寿命化を図り、修繕費等の維持経費の軽減につなげることができる。 ・交通環境が向上することで、通学等の子育て環境の向上や地域交流の活発化が図られ、総合計画の掲げる「人のぬくもりとふれあい」が奏でる躍動のまち」の実現に資することができる。 ①長寿命化改修を行わない場合 長寿命化改修を行わないことで、老朽化が進行し、5年後に大規模改修が発生するものと想定 簡易修繕経費3,000千円/年＋5年後の大規模改修経費76,000千円/5 ＝18,200千円/年 ②長寿命化改修を行う場合 今回長寿命化補修を実施することで、5年内の大規模改修が不要なものと想定 長寿命化改修経費38,000千円/5＋5年間の簡易修繕経費3,000千円＝10,600千円/年 ①と②の差額＝事業効果額 18,200千円/年－10,600千円/年＝7,600千円/年							
事業実績									
取組状況		町道において、舗装や付帯する構造物が損傷している箇所が多数存在しており、住民からの要望も絶えることがない状況である。各区等からの要望箇所について、危険性、緊急性等勘案しながら、優先順位を決めて順次修繕を実施した。 【修繕箇所】 町道千手寺線 町道坂原須川線 町道千手寺線 町道蒲生野高原中央線 町道須知市森線 町道下山日吉線 町道中台来光田線 町道安井塩田谷線 他 道路改修工事費 34,188千円							
主な実績数値 (出来高数値等)									
期待される事業効果等 に対する達成状況		達成	(左の理由)		期待される事業効果：7,600千円/年＜行革効果：8,362千円/年				
行革効果									
行革効果の考え方		本事業の効果 ・事故を未然に防止し、安全安心な生活道路としての機能を維持することができる。 ・できるだけ早期に修繕することにより、老朽化の進行を防止し、施設の長寿命化を図り、修繕費等の維持経費の軽減につなげることができる。 ・交通環境が向上することで、通学等の子育て環境の向上や地域交流の活発化が図られ、総合計画の掲げる「人のぬくもりとふれあい」が奏でる躍動のまち」の実現に資することができる。 ①長寿命化改修を行わない場合 長寿命化改修を行わないことで、老朽化が進行し、5年後に大規模改修が発生するものと想定 簡易修繕経費3,000千円/年＋5年後の大規模改修経費76,000千円/5 ＝18,200千円/年 ②長寿命化改修を行う場合 今回長寿命化補修を実施することで、5年内の大規模改修が不要なものと想定 長寿命化改修経費34,188千円/5＋5年間の簡易修繕経費3,000千円＝9,838千円/年 ①と②の差額＝事業効果額 18,200千円/年－9,838千円/年＝8,362千円/年							
年度	H24	H25	H26	H27	H28				
本事業を行わなかった 場合に係る経費等(a)	18,200	18,200	18,200	18,200	18,200				
本事業の実績額(b)	9,838	9,838	9,838	9,838	9,838				
行革効果(a)-(b)	8,362	8,362	8,362	8,362	8,362				

2. 平成24年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について
【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目							
小規模市町村支援		町有施設空調機器修繕事業							
事業着手前									
課題・現状		町有施設の空調機器については、厳しい財政事情から早期の更新はできず、耐用年数を超えて長期間に渡り使用せざるを得ない状況であり、老朽化による故障等が頻発しているが、近年の猛暑や厳冬においては、施設機能の維持のために必要不可欠な設備であり、施設利用者等から早急な改善が要望されているところである。 また、近年、低炭素社会や省電力社会が推進されており、電力消費の激しい旧式の設備を最新設備に更新することにより、低炭素化と省電力化を図り、併せて電気代等のランニングコストの低減を図ることが期待されているところである。							
事業概要		故障した町有施設の空調機器の修繕を行い、施設機能の維持と、ランニングコストの軽減を図る。 今回修繕を行う施設はいずれも、教育施設や保育所、各種社会教育等行事の会場等として、常時使用する必要がある町の主要施設であり、多数の住民が来庁・来館するため、適切な維持管理・長寿命化対策が必要とされているところである。 【施設名】 蒲生野中学校 中央公民館 上豊田保育所 わちエンジェル 他 空調機器等改修費 2,861千円							
期待される事業効果等		本事業の効果 ・施設機能の維持と耐久性の向上や経年劣化の軽減等を図り、長寿命化の実現により更新費用の削減と平準化を図ることができる。 ・老朽化した空調設備等を最新の省電力機器に更新することにより、ランニングコストの軽減を図ることができる。 ・来庁・来館者が快適に施設を利用することができるようになることで施設利用者の増加が期待され、子育て環境の向上や社会教育事業の活発化により、総合計画の掲げる「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち」の実現に資することができる。 ①機器改修を行わない場合 応急的な修繕にとどめた結果、継続的に軽微修繕が発生し5年後に大きな改修が生じるものと想定 軽微修繕費 200千円/年 5年度の改修費 2,861千円 1年あたり改修費(／5) 572千円/年 年間電気料金 300千円/年 合計 1,072千円/年 ②機器改修を行う場合 機器改修費 2,861千円 1年あたり改修費(／5) 572千円/年 年間電気料金 150千円/年 合計 722千円/年 ①と②の差額＝事業効果額 1,072千円/年－722千円/年＝350千円/年							
事業実績									
取組状況		故障した町有施設の空調機器の修繕を行い、施設機能の維持と、ランニングコストの軽減を図った。							
主な実績数値 (出来高数値等)		【施設名】 蒲生野中学校 中央公民館 上豊田保育所 わちエンジェル 他 空調機器等改修費 3,492千円							
期待される事業効果等 に対する達成状況		達成	(左の理由)		期待される事業効果：350千円/年＝行革効果：350千円/年				
行革効果									
行革効果の考え方		本事業の効果 ・施設機能の維持と耐久性の向上や経年劣化の軽減等を図り、長寿命化の実現により更新費用の削減と平準化を図ることができる。 ・老朽化した空調設備等を最新の省電力機器に更新することにより、ランニングコストの軽減を図ることができる。 ・来庁・来館者が快適に施設を利用することができるようになることで施設利用者の増加が期待され、子育て環境の向上や社会教育事業の活発化により、総合計画の掲げる「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち」の実現に資することができる。 ①機器改修を行わない場合 応急的な修繕にとどめた結果、継続的に軽微修繕が発生し5年後に大きな改修が生じるものと想定 軽微修繕費 200千円/年 5年度の改修費 3,492千円 1年あたり改修費(／5) 698千円/年 年間電気料金 300千円/年 合計 1,198千円/年 ②機器改修を行う場合 機器改修費 3,492千円 1年あたり改修費(／5) 698千円/年 年間電気料金 150千円/年 合計 848千円/年 ①と②の差額＝事業効果額 1,198千円/年－848千円/年＝350千円/年							
年度	H24	H25	H26	H27	H28				
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	1,198	1,198	1,198	1,198	1,198				
本事業の実績額(b)	848	848	848	848	848				
行革効果(a)-(b)	350	350	350	350	350				

2. 平成24年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について
【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

支援区分		事業名・実施項目							
小規模市町村支援		中学校改修事業							
事業着手前									
課題・現状	本町の公共施設は、老朽化が進行し漏水・雨漏り等使用に支障をきたすものが多数存在する状況であるが、厳しい財政事情から早期の更新は困難な状況にある。 順次修繕を実施することにより、耐久性の向上や経年劣化の軽減等を図り、長寿命化を実現し、更新費用の削減と平準化を図る必要がある。 瑞穂中学校については、昭和59年に建築され、以来29年間に渡り、旧瑞穂町における唯一の中学校として利用されてきた。 本施設においては、平成21年度事業として屋内運動場とグラウンドの改修整備を実施しているが、校舎については耐震化基準を満たしており、当面は建替えの予定は無く、長期的な使用を前提に、計画的な維持管理・長寿命化の取組を実施しているところである。								
事業概要	瑞穂中学校は、平成21年度事業として屋内運動場とグラウンドの改修整備を実施しているが、校舎については耐震化基準を満たしており、当面は建替えの予定は無く、長期的な使用を前提に、計画的な維持管理・長寿命化の取組を実施しているところである。 今年度については、老朽化が著しく、また施設規模に比して容量が不足している受電設備の改修等を行い、生徒の安心・安全の確保に努めるとともに、老朽化の進行の防止と施設の長寿命化を図り、修繕費等の維持経費の軽減につなげるものである。 測量設計業務等委託料 490千円 工事請負費 20,246千円								
期待される事業効果等	本事業の効果 ・老朽化の著しい受電設備の改修を行い、生徒の安心・安全の確保を図ることができる。 ・老朽化の進行の防止と施設の長寿命化を図り、修繕費等の維持経費の軽減を図ることができる。 ・中学校施設の充実を図ることにより、教育環境が向上し、総合計画の掲げる「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち」の実現に資することができる。 ①長寿命化改修を行わない場合 長寿命化改修を行わないことで、老朽化が進行し、10年後に再建設費が発生するものと想定 (10年間の簡易修繕経費30,000千円＋再建設費500,000千円)/10＝53,000千円/年 ②長寿命化改修を行う場合 定期的な長寿命化改修を計画的に実施することで、施設寿命を10年間延長するものと想定 (20年間の長寿命化改修経費200,000千円＋再建設費500,000千円)/20＝35,000千円/年 ①と②の差額＝事業効果額 53,000千円/年－35,000千円/年＝18,000千円/年								
事業実績									
取組状況	瑞穂中学校は、平成21年度事業として屋内運動場とグラウンドの改修整備を実施しているが、校舎については耐震化基準を満たしており、当面は建替えの予定は無く、長期的な使用を前提に、計画的な維持管理・長寿命化の取組を実施しているところである。 今年度については、老朽化が著しく、また施設規模に比して容量が不足している受電設備の改修等を行い、生徒の安心・安全の確保に努めるとともに、老朽化の進行の防止と施設の長寿命化を図り、修繕費等の維持経費の軽減につなげるものである。								
主な実績数値 (出来高数値等)	測量設計業務等委託料 416千円 工事請負費 19,445千円								
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)		期待される事業効果：18,000千円/年＝行革効果：18,000千円/年					
行革効果									
行革効果の考え方	本事業の効果 ・老朽化の著しい受電設備の改修を行い、生徒の安心・安全の確保を図ることができる。 ・老朽化の進行の防止と施設の長寿命化を図り、修繕費等の維持経費の軽減を図ることができる。 ・中学校施設の充実を図ることにより、教育環境が向上し、総合計画の掲げる「人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち」の実現に資することができる。 ①長寿命化改修を行わない場合 長寿命化改修を行わないことで、老朽化が進行し、10年後に再建設費が発生するものと想定 (10年間の簡易修繕経費30,000千円＋再建設費500,000千円)/10＝53,000千円/年 ②長寿命化改修を行う場合 定期的な長寿命化改修を計画的に実施することで、施設寿命を10年間延長するものと想定 (20年間の長寿命化改修経費200,000千円＋再建設費500,000千円)/20＝35,000千円/年 ①と②の差額＝事業効果額 53,000千円/年－35,000千円/年＝18,000千円/年								
年度	H24	H25	H26	H27	H28				
本事業を行わなかった場合に係る経費等(a)	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000				
本事業の実績額(b)	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000				
行革効果(a)-(b)	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000				